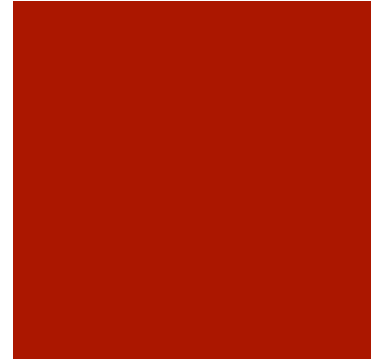




C.T.T.とは何か？

C.T.T.とは

“Contemporary Theater Training”
の略で「現代演劇の訓練」の意味です。



演劇公演には資金や、集客や調整など創作以外に割かれる多くの時間、
エネルギーが必要



そうした手間を最小限に抑えることで、頻度の高い上演機会や作品の
プレゼンテーションの機会を作れないか。



舞台効果を最小限に抑え、純粹に作品性だけを検証できる場を作るこ
とで、作品そのものの力ものばせるのでは。

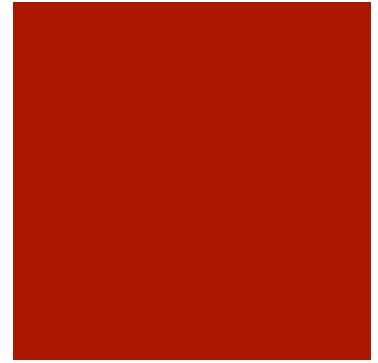


「試演会」という位置づけの会を運営し、参加者を募る活動を開始。

→C.T.T.の始まり。

目的

- 作品の試演を行い、上演後その場で作品を検証することで、「作品」と「観客」がより豊かな関係を結ぶお手伝いをする

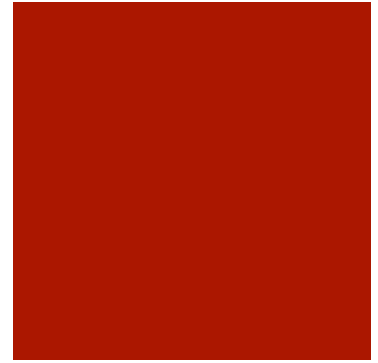


この活動は1995年に京都で始まり、およそ年6回程度のペースで開催、現在（2010年8月）までに89回の上演会を実施してきました。2007年からは名古屋、広島、大阪、岡山にも事務局が立ち上がり各地で上演会が始まりました。そして、その開催地は増えつつあります。



C.T.T.が地域にもたらす効果

- 作り手の育成
- （事務局を運営することで）プロデューサーとして地域の文化振興を担う人材の育成
- 舞台芸術を介在とした、国内外の人材交流の促進
- 地域からの文化発信力の強化
- 才能の流出の抑制、または才能を呼び込む力の強化
- 作り手を育む場所（育成型の劇場）の開拓とその活性化への貢献



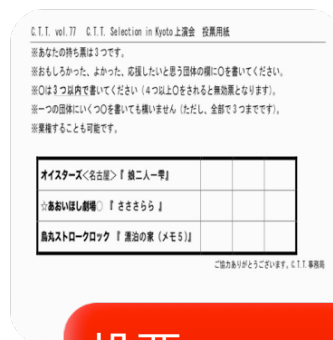
上演会はこのように行われます。



上演
2～3 団体が
続けて上演



合評会
• 終演後各団体の
代表者が壇上に
上り事務局のし
会による合評会
を実施



投票
• 観客による投票

出演方法と条件

- **参加費**：2500円/1人（出演者、演出家等主たる参加者一人当たり）

注：セレクション上演会では参加費不要。

- **上演条件**：上演時間30分以内。／C.T.T.事務局は基本舞台と地明りを用意（オペレーターも）、それ以上の効果が必要な場合は参加団体に用意。

- **会場**：各地の小スペース

- **ステージ数**：2ステージ（各回終了後 合評会実施）

- **チケット・チラシ**：必要に応じてチケット・チラシを参加者団体に配布。（チケット販売ノルマは設けない。）売れ残ったチケットと売上金は当日会場にて精算。各団体5名まで招待あり。

注：招待者は投票権なし。ただし投票希望の招待者は参加2団体の場合100円、3団体は150円を支払い投票権を得ることが可能。注2：CITセレクション上演会など通常上演会でない場合は、チケット及び投票料の値段が上がることがあります。



上演協力金

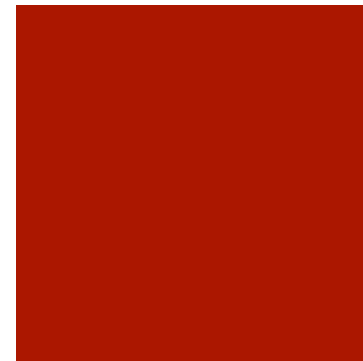
- お客さんに払って頂くチケット料金

* 『**上演協力金**』と呼んでいます

参加団体が2団体の場合**900円**／会場に400円、C.T.T.に400円、参加団体に100円と分配

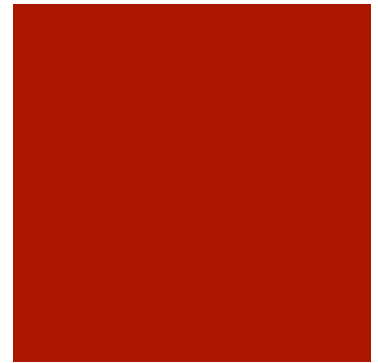
参加団体が3団体の場合**950円**／会場に400円、C.T.T.に400円、参加団体に150円と分配

注：上記は通常上演会の料金。セレクション上演会では料金が変わります。



出演団体への ペイバックの方法

- 観客には団体数の投票権があり、上演後投票します。つまり参加団体が2団体の場合、観客は2票を投票する権利を持っていて、各団体に1票ずつ入れてもいいし、2票をいずれかの団体に入れても可。棄権でもいい（棄権の場合は返金されません）。
- 獲得票数×50円が参加団体に還元。



上演日当日の流れ（モデル）



- 初日

9 : 30～15 : 30場当たり及びリハーサル（12 : 00～13 : 00休憩）

15 : 30～17 : 30ゲネプロ。

17 : 30～開場準備、18 : 00開場、18 : 30開演、

20 : 30終演、合評会21 : 10終了。

- 2日目

9 : 30～12 : 00リハーサル、

13 : 00～開場準備、13 : 30開場、14 : 00開演。

合評会終了16 : 40。引き続きバラシ。

撤収完了20 : 30

舞台について

(アトリエ劇研<京都>の場合)

- 基本舞台：奥行き3間(5.4m)×間口3間(5.4m)、床面グレーパンチ。舞台高さ±0。ではけ口上下に一つずつ。袖幕黒。舞台奥通り抜けあり。客席雛壇栈敷。
- 照明・音響：（色を入れない）地明かり。音響設備無し。

注：それ以上のものを望む場合は各団体負担。照明効果は事務局がしつらえた物以外は不可。音響効果を使う場合はオペレーターを含め各団体負担。タイムテーブル内での仕込みができることが条件。必要以上のしつらえは不可。

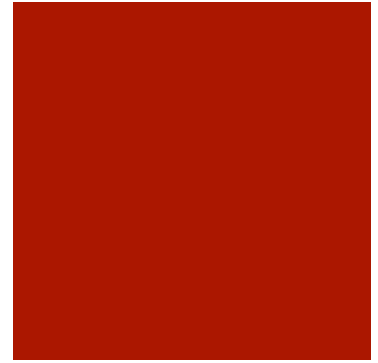


上演会実施までの流れ



セレクション上演会

- 参加団体の意欲を高めたり、各地と交流する方法として『セレクション上演会』を開催しています。
- その名の通り、選抜されたグループを集めた上演会です。
- 観客投票に基づいて参加団体が選抜されます。選ばれた団体は参加費がかからないなど、通常会よりいい条件で、上演機会を得られます。
- セレクション上演会は地元2～3団体、他の地方1～2団体を招いて実施されます。
- 舞台設定など上演形態は通常会と変わりません。



セレクション上演会の仕組み

各地の上演会4回の中で、得票数1位と2位の団体を選抜

他都市のセレクションを勝ち抜いた（もしくは事務局が推薦する）1～2団体を加えて『セレクション上演会』を実施

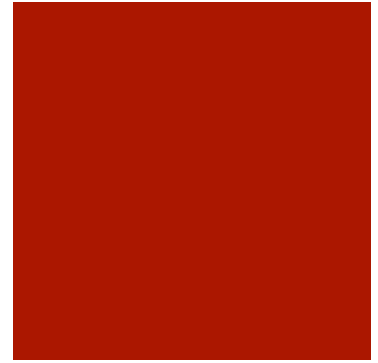
ここで得票数1位となった団体は、他都市のセレクション上演会に推薦される。

上演会の実施会場

- この上演会は非常に低コストで運営している為、各地の劇場さんの協力無しには継続することができません。廉価で会場を提供してくことで、維持されています。

各地の上演会場となっている場所は次の通り。

- 京都：アトリエ劇研
- 名古屋：七ツ寺共同スタジオ
- 広島：山小屋シアター
- 大阪：ウイングフィールド
- 岡山：本行寺



参加するのはどんな人達？

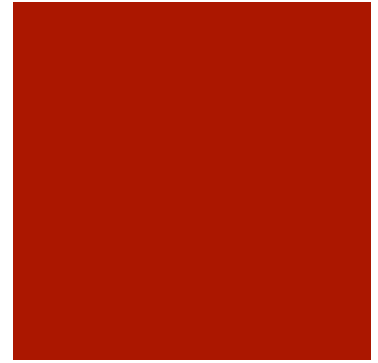
- 場数を踏んで上手になりたい役者さん
- 本公演前に試作品をお客さんの前で上演することで、できを確認したい劇団
- あたらしい手法に挑戦したい演出家やグループ
- 劇団やダンスユニットを立ち上げるためのプレミア公演をしたい個人
- 作品の完成度をあげるために、お客さんに見てもらって批評を受けたい人。
- 自分の作品をいろいろな人に見てもらい、支持者を増やしたいかた。

キャリア30年以上の方から、ほとんど舞台経験がない方まで多様な方が参加しています。ストレートプレイもあれば、現代ダンスも、パントマイムも前衛表現もあり、過去には外国のプロの俳優さんの参加やプロの能楽師による能楽の参加もありました。



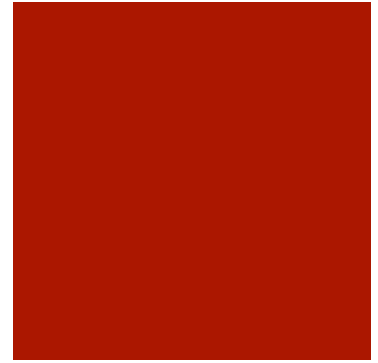
C.T.T.の特徴

- 制作資金集めや舞台の確保、設営などの負担がかからない。（一人2500円の参加費で舞台から、照明、チケット、チラシまで事務局が整えます。）→**負担が少なく上演機会が得られる。**
- お客さんやこの会を運営する事務局員と直接作品について語る場もてる→**作品の検証ができる。**
- 簡単に申し込みができ、すぐ上演できる、なおかつ頻繁に開催される。→**必要な時に利用できる。**
- 人的コネクションやマネージメント力（制作力）が無くても、作品そのものによって評価を得られる機会がある。→**公平なチャンスを生み出す。**



C.T.T.の特徴

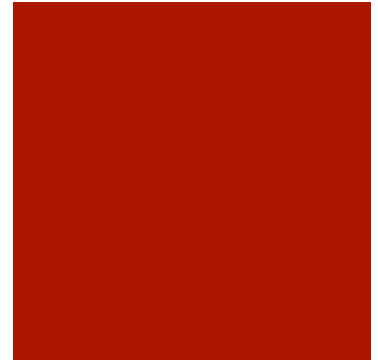
- キャリアなどに関係なく誰でも参加できる「開かれた」場である→**チャンスの拡大。**
- 特定の作品性や手法をひいきするものではなく、もちろん政治活動や宗教の普及、商売のために行うものではない→**表現の自由を保証し、画一化を防ぐ効果**
- 現在の技量よりも、作品や演劇に対する「志」や、「こうしていきたいという意識」を評価する→**育成に貢献する。**
- この場に出合った、優れた作品、俳優、劇作家、演出家を事務局が支援できる →**次の可能性へとつなげられるプレゼンテーション場として機能する。**



運営上のポリシー 1

『身体性の重視』

- 「演技（身体を使った表現）」を大切にしています。もちろん、演出、劇作を試す場としても使っていただけますが、演出効果として音響や照明効果、美術を使った空間演出などに関しては、制限があります。（そうしたことを主に試したい場合には向かないということになります。）あくまでも演者が表現すべきことを中心にすえ、その部分を見つめる場を目指しています。



運営上のポリシー 2

『未完成の容認』

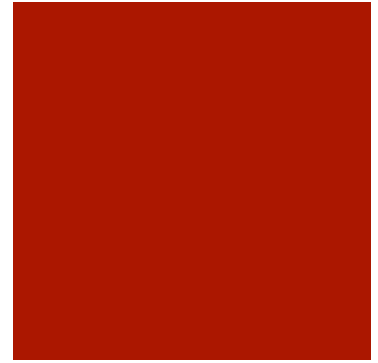
- この上演会は、トレーニングの場であり、ワークイン
プログレスの発表の場です。言い換えれば、未完成が
許される場です。
- ただし、未完成と「いい加減」は違います。しっかり
した意図や気持ち、意欲を持った作品と、テキトウに
作った作品は本来は並列されるべきではありませんが、
この場では許されます。事務局では合評会等の場で
しっかりとその差に関して指摘をし、自覚のない参加
者に対しては自覚を促そうとしています。



運営上のポリシー 3

『オリジナリティーの重視』

- C.T.T.は単なる人気取りや、コピーを推奨していません。人気劇団の参加は上演会を盛り上げる上でたいへん好ましいことです。しかし、安易なショーケースに流れることには注意を払っています。また、どこかの劇団のそっくりコピーである作品や、創作への意識が低い作品に対しては、合評会において、そうしたことへの自覚を促す方向で対応しています。



運営上のポリシー 4

『頻繁に開催される』

- 試演会が機能する環境は、作り手が行いたい時に実施できる環境です。まれにしか開催されないのでは、そうした要望に応えられません。ですので、事務局はできるだけ頻繁に開催できるよう、努力しています。

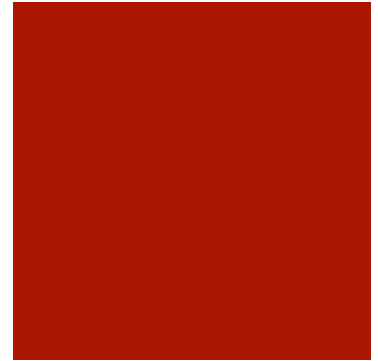


運営上のポリシー 5

『連続参加や継続参加を妨げない』

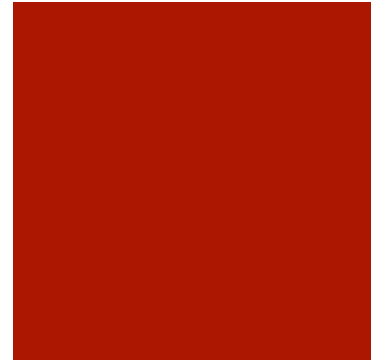
- 過去には1年に5回出演した団体もいるように、意欲的な参加をむしろ歓迎します。

注：こうする事でセレクションに選ばれる確率は上がりますが、現在は「それでも良い」という事にしていきます。



ちなみに・・・

- 未完成品でもいいという上演会ですから、そうとはしらずに来られたお客様からは、たくさんのおしかりを受けました。「客は時間を使って来ているのだから、そうしたことに対する意識がないならやめた方がいい」などとアンケートに書かれた事もあります。上演中にまさに席を蹴って退場された方もいらっしゃいましたし、上演中に「やめろ！」と叫んだ人もいました。
- 終演後かならず行なう合評会でも、（一生懸命作った作品が批判にさらされるのはとても辛いので）参加団体からは「もっとまじな発言をしてほしい」とか「司会が悪い」・・・などなどこれまた数えきれないくらいのおしかりを受けて来ました。
- 全裸表現もあったし、放送禁止用語で構成された芝居もありました。社会に対してのタブーも受け入れて来ましたが、そうしたことに対しても（そうした表現は）受け入れるべきでないという意見も頂戴しました。

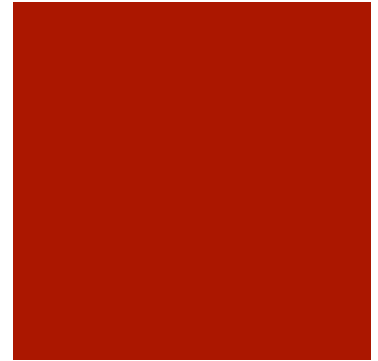


出演団体からも . . .

- 参加団体からも数々のクレームを頂きました。素舞台、地明のみ、音響効果無しというのが基本条件です。つまり「演技者の身体だけで見せてください」というのが大前提です。それは、舞台表現の本質がそこにあると考えているからですが、「よりよく見せたい」と考えるのが作り手の正直な気持ちです。効果が使えないことに不満を訴える人もいます。

その度に話し合い、説明し、理解を得るようにしてきました。

- これからもそうしたご意見は尊重しつつ、より有意義な場を目指して運営していくつもりです。



お客様の作品評価

- Vol56 (2005年10月上演会)から観客による投票制度という方法を始めました。参加団体が3団体の時は3票、2団体の時は2票お客様に持ち票があり、応援したい団体良かった団体に投票していただく仕組みです。そして獲得票数に応じて料金の一部が参加団体に還元されます。これをやり始めてわかったことがあります。お客さんを一番集めた団体が必ずしも投票が1位ではない、ということです。いや、むしろ一番印象的で面白い作品を作った団体が、きちんと票を獲得するという傾向があることがわかってきました。

その傾向を信じて、「セレクション上演会」では、観客からの投票のみを選考基準にしています。



展望

- 各地に事務局ができた事で、この仕組みを使ってた地域との交流を促進することができるようになりました。
- 優れた作品を負担少なく他都市に紹介できる仕組みです。



『**セレクション上演会**』がそれにあたります。

選ばれれば**旅費、制作負担が無く他都市公演ができます**

また、各地の事務局が連携してそうし作品や作り手を支援できる可能性が見えて来たことは、C.T.T.の新たな魅力となりつつあります。



展望 2

- こうした例がありました。

京都での公演を計画している東京の劇団、上演に先立って京都のC.T.T.に参加しました。低負担で作品のプレゼンテーションができる上に、その時に参加した他団体と交流が持て、その後の本公演につなげることができました。

海外から京都で滞在制作をしに来日したアーティストがC.T.T.に参加しました。海外の方にとってはよほど受け入れがしっかりしていないと、集客すら難しいものですが、低コストで公演できる上に、地元の舞台関係者との交流が実現しました。

→他都市でのプレゼンテーションに使える！



展望 3

- 韓国で小劇場を運営するディレクターが、視察で来日した際に、たまたまC.T.T.を見て興味を持っていただけました。

非常にシンプルな方法なので、海外でも仕組みを共有することが可能です。

→近い将来、海外にも事務局が立ち上がり、同じ仕組みでの上演会が実現出来る可能性があります。

→日本国内での都市館交流と同様に、定期的な国際交流機会がもてるかもしれません。



展望 4

C.T.T.ヴィジョンミーティング

- C.T.T.が複数の都市で実施されることになったことを契機に、各地の事務局並びに、C.T.T.が行なわれていない都市の、文化関係者などを交えたミーティングが始まりました。

2008年4月 岡山 2008年7月 京都

2009年1月 三重、名古屋

2009年6月 広島

- 回を重ねるごとに、認知の共有、可能性の共有が計られるようになりました。交流がどんどん進んでいます。

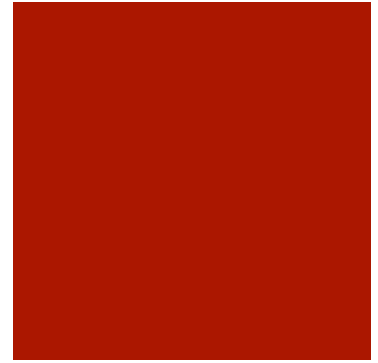
→2009年6月に行なわれた広島でのミーティング議事録を資料として添付します。



事務局を運営すること

- C.T.T.は、実演家ならびに、制作者や企画者、批評家、そして観客も交えて、みんなで舞台を良くするという事業です。しかし、内容がとてもシンプルなためか、その趣旨が上手く伝わらないことがあります。

全く初めて舞台を踏む人から、一流のプロまで様々な人を平等に受け入れるため、常にいい作品を期待する観客からは「ひどい作品を上演するくらいならしないほうがまし」などの厳しい意見を頂戴したりもします。



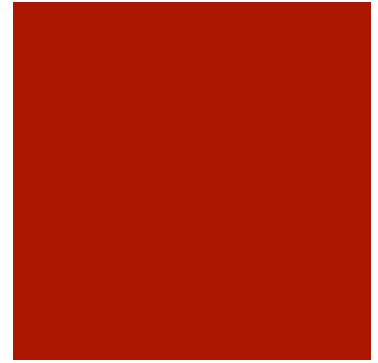
事務局を運営すること

シンプルには訳があります。

例えば、利用したい人が「力点をおきたい部分」で色々に活用できます。例えば参加者にとっては俳優のトレーニングや作品のプレゼンテーションに。事務局にとっては自分たちの批評能力の強化になどです。

なにより最大のメリットは、資金がかからないので、頻繁開催が可能。そして、その仕組みを共有しやすい。
(海外でも可能！)

活用する人が、この価値を決められるのです。



事務局を運営すること

この会を運営する人にとって最も大事なことは、続けることです。それには、制作的な経験や実績は必ずしも必要ありません。

この仕組みによって、多くの人とつながりができました。そのつながりは継続しようとする「思い」の共有に他ありません。参加するアーティストはもとより、運営する事務局員の実績やスキルにもそれぞれ大きな差がありますが、「思い」さえあれば何かが生まれる気がします。一過性のイベントでは、つながりも一過性になりがちです。続く中でつながりも深まるのだと思います。

(C.T.T.京都事務局代表 杉山準)

最後に

いい作品はきっと見知らぬ土地でも人を動かす力があるはずです。C.T.T.はそうした力（すなわち観客とどの程度いい関係が取れるか）を確認する場であり、それを育む場です。それが上手くいくことが、社会の中に舞台芸術が根を張っていくことではないでしょうか。

とは言いながら、実際の上演会では「えっ（こんなにひどいの）？」という作品も存在します。しかし、「えっ？」が「おお！」に変わる事もあります。

今すぐに結果を求めないことの可能性を信じていたいと思います。

